

インターネットによる
豊富なデジタルコンテンツの提供

事例 8. 青森県総合社会教育センター

ポイント

- ★ 「あおもり県民カレッジ」は、県内の各種講座やテレビ・ラジオ番組、ビデオ教材、インターネット講座など多様な形態により受講可能
- ★ eラーニングコンテンツとして、郷土青森について詳しく学べる「あおもり学インターネット講座」や就職活動・企業などに役立つ知識が学べる「元気青森人 Power Up コンテンツ」、青森県の家庭教育を支援する「あおもり子育てネット」を提供
- 一定の単位取得で認定証や奨励賞を交付

1. 概要

青森県総合社会教育センターは、生涯学習サービスとして「あおもり県民カレッジ」を提供している。これは、県民が自分にあった講座を選んで学習すると共に、学習したことを地域で活かすことを目指したものである。2011年度までは青森について詳しく学べる「あおもり学インターネット講座」や就職活動・企業などに役立つ知識が学べる「元気青森人 Power Up コンテンツ」、青森県の家庭教育を支援する「あおもり子育てネット」においてデジタルコンテンツを制作し、現在も Web サイト上で継続して提供している⁴²。

2. 活動内容

(1) 単位認定制度

「あおもり県民カレッジ」に入学すると、県内の様々な講座に参加できる⁴³。県民カレッジは高校生以上を対象としており、いつでも無料で入学できる⁴⁴。入学申込書を提出後、県民カレッジ手帳が交付されて受講を開始する。県民カレッジ手帳が交付されたら、「ありすネット（青森県学習情報提供システム）」で受きたい講座を探して講座を受講する。原則として1時間の受講につき1単位とカウントし、100単位に達すると希望者に「認定証」が交

⁴² 2012年度以降は、現在のところ新規コンテンツの予定はない。

⁴³ 県民カレッジの学生数は16,329人、認定者数は4,129人、連携機関数560機関である（2013年3月31日現在）（<http://www.alis.pref.aomori.lg.jp/college/index.html>）

⁴⁴ 「あおもり県民カレッジ 単位認定講座」（<http://www.alis.pref.aomori.lg.jp/college/koza/index.html>）

付される。200 単位を超えると、4 段階の「奨励証」が交付される。200 単位で「県民カレッジ学士賞」、500 単位で「県民カレッジ修士賞」、1000 単位で「県民カレッジ博士賞」、2000 単位で「県民カレッジ学長賞」が交付される。なお、「認定証」や「奨励賞」の取得により、何らかの特典が得られるわけではなく、あくまで個々人の学習意欲の後押しを目的とした制度である。

幼児や小中学校の子供向けの「子どもカレッジ」も用意されており、50 単位で「認定証」、100 単位で「子どもカレッジ学士賞」、200 単位で「子どもカレッジ修士賞」、300 単位で「子どもカレッジ博士賞」、500 単位で「子どもカレッジ学長賞」が交付される。

受講スタイルは様々で、県内の各種講座を受ける以外に Web サイト上で動画配信するインターネット講座を視聴したり、放送大学等の連携先が提供する講座を視聴したりもでき、自分に合ったものを選べる。放送大学をはじめ NHK の教育番組や生涯学習番組等を視聴した場合、受講証明（視聴証明）を取得することで 1 番組あたり 1 単位を取得できる。どの受講スタイルでも、原則として 1 時間あたり 1 単位としてカウントされる。

(2) e ラーニングコンテンツ

「あおもり県民カレッジ」の一環として青森県総合社会教育センターが提供するインターネット講座に、「あおもり学インターネット講座」と「元気青森人 Power Up コンテンツ」、「あおもり子育てネット」がある。これらは、青森県内各地で開催されている連携機関の講座や、歴史・文化・キャリア教育に関する講座、家庭教育に関する動画を Web サイト上で無料配信しており、誰でも視聴できる。

① 「あおもり学インターネット講座」

あおもり県民カレッジ「あおもり学インターネット講座」⁴⁵では、風土や文化、地域活動など郷土について詳しく学べる e ラーニング教材が用意されている。また、青森県の発展に寄与した人物による講座「あおもり学特別講座」や、青森県出身で活躍した歴史上の人物を紹介する「青森県の先人」など、“青森県”を理解するための講座が充実している。字幕および音声解説による動画は、幅広い人々が学習できるよう工夫されている。世界自然遺産に登録されている白神

「あおもり学インターネット講座」トップページ



⁴⁵ 「あおもり県民カレッジ あおもり学インターネット講座」 (<http://www.kenmin-college.net>)

山地に関する詳細な動画教材も用意されており、“青森県”の理解に留まらず、我が国の自然環境を知るためにも貴重な教材といえる。動画は約 50 本で、一つの動画がさらに数本の動画で構成されているものもある。

② 「元気青森人 Power Up コンテンツ」

青森県総合社会教育センターが提供する e ラーニング教材「元気青森人 Power Up コンテンツ」⁴⁶は、求職者や新社会人に役立つ、就職活動や仕事、起業に関する公開講座等の動画を Web サイト上で配信している⁴⁷。これらは、求職中の若者の仕事探しや生き方に関する悩みを解決し、社会進出を支援することを目的としている。サッカーコーチや料理師等の様々な分野の専門家、起業した社長から現場で働く社員など、社会人の経験を講義形式で撮影し、その動画を Web サイトで提供している。

多様な分野の専門家や社会人等の求職や生き方に関する助言が動画で閲覧できる点が特徴である。専門的なスキル教育ではなく、講師自身のキャリア選択の経験を共有するといったキャリア支援を志向したデジタルコンテンツを掲載している。

現在「公開講座」で 8 コンテンツ、「ワンポイントアドバイス」で 16 コンテンツ、「はたらく心」で 94 件の動画となっており、2012 年度からは指定管理者制度の導入に伴い新しいデジタルコンテンツの制作は行われていない。

③ 「あおもり子育てネット」

青森県総合社会教育センターが提供する e ラーニング教材「あおもり子育てネット」⁴⁸は、家庭教育に関する問題解決のヒントや、県内関連事業を紹介するデジタルコンテンツを Web サイト上で配信している。これらは、子育てに関わる人々の抱える不安や悩みを払拭し、家庭教育の重要性を訴えることを目的としている。

これまで「青森県総合社会教育センター企画テレビ放送番組」20 件、「子育てワンポイン

元気青森人 Power Up コンテンツ

トップページ



⁴⁶ 「元気青森人 Power Up コンテンツ」 (<http://www.shigotoryoku.net/>)

⁴⁷ e ラーニング教材へのアクセス数は、近年は 6,000～7,000 件台で推移している。

⁴⁸ 「あおもり子育てネット」 (<http://kosodate-a.net/>)

トアドバイス」10件、「公開講座」7件の動画が配信されている他、2012年度は新たに「家庭教育支援コンテンツ」10件、「家庭教育支援啓発教材」2件が配信された。

(3) 「インフォメーションプラザありす」

「インフォメーションプラザありす」⁴⁹は、生涯学習相談室に相当するもので、青森県総合社会教育センターの総合窓口として実在し、Webページとともに指定管理者により2012年度から運営されている。Webページでは、生涯学習講座やイベントなどの情報発信を行っており、その一つに「講座アーカイブ」がある。「講座アーカイブ」では講座内容の紹介を兼ねて、「りんごの木を育てる講座」や着付け教室などの約10本の動画をYouTubeで配信している。

「あおもり子育てネット」

トップページ



■青森県総合社会教育センター

〒030-0111 青森県青森市荒川藤戸 119-7

Tel : 017-739-1252

URL : <http://www.alis.pref.aomori.lg.jp/>

⁴⁹ 「インフォメーションプラザありす」 (<http://alisinfo.jp/archive.html>)

事例 9. 篠山市視聴覚ライブラリー「丹波篠山インターネット TV」

ポイント

- ★ 1972年に設立された視聴覚ライブラリーが現在まで制作、保存、蓄積してきた豊富な地域の映像資料をインターネット上で視聴可能
- 一般市民の参加を促すため、市民が制作した映像は随時「お便りビデオ」に投稿・公開可能で、毎年「丹波篠山ビデオ大賞」コンクールも開催

1. 概要

篠山市の自然風景や伝統的な祭りの動画等、古いものから新しいものまで、多様な分野の映像が Web サイト上で提供されている。これらの映像は篠山市視聴覚ライブラリーが制作したもので、丹波篠山インターネット TV の Web サイトの運営も同視聴覚ライブラリーが運営している。利用者は、分類や地区などのキーワードを入力することで興味関心のある映像を検索できる。同ライブラリーは、篠山市立中央図書館内に設置されており、主に地域映像の収集・配信、ビデオ制作やメディア複製・変換作業の支援、視聴覚機材の貸出、情報化推進、全国アマチュアビデオコンクールなどの業務を行っている。

また、情報化推進に関する特色ある取組として「ICT ふれあいサロン」がある。図書館展示ホールの一隅にパソコン 10 台を設置し、誰もが気軽にパソコン操作や情報活用について相談ができ、指導が受けられるようにしている。サロンを支えるのは、市民ボランティアからなるサポートスタッフのメンバーで、それぞれの知識や技術、経験を活かした柔軟な対応により、市民の学びを支援している。単なる一過性の学習ではなく、パソコンを通じた仲間づくり・コミュニケーションづくりを意識した運営を行っているのも大きな特徴である。

2. 活動内容

(1) 映像の配信

インターネット TV チャンネルには、市内の催しなどの映像を提供する「市内の出来事」、視聴者から投稿のあった動画を掲載する「お便りビデオ」、ドキュメンタリーや特集動画が中心の「スペシャル」、関東大震災の記録フィルムなどをデジタル化した動画を提供する「アーカイブス」、その他「中継チャンネル」、「ウェブラジオ」等のデジタルコンテンツがある。それぞれの映像に音声や字幕及び解説があり、いずれのチャンネルにおいても地域に密着

した内容が中心となっている。篠山市視聴覚ライブラリーは、1972年にその前身となる多紀郡視聴覚ライブラリーとして設立された。それ以後数多くの貴重な地域映像資料を蓄積しており、さらに現在もまちづくりや伝統行事などの身近な話題や、歴史・文化・風土といった地域に根ざした映像の記録を続けていることにより、このような映像発信が可能となっている⁵⁰。2012年にホームページをリニューアルし、H.264規格のデータを3段階の画質で配信している（現在965タイトル。他にYouTubeチャンネルもある）。

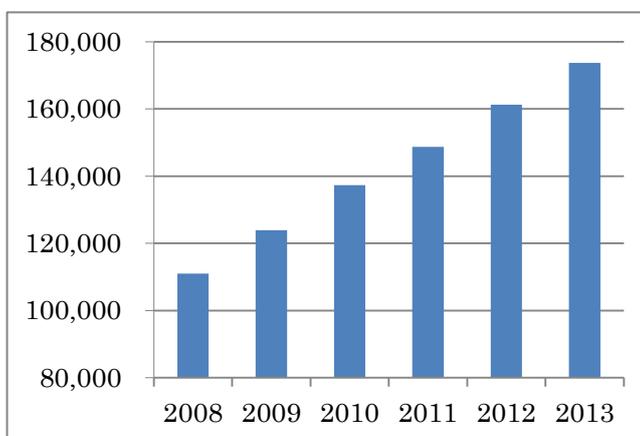
(2) 市民の主体的な参加

インターネットTVチャンネルの中でも「お便りビデオ」は一般市民が自由に投稿した映像コンテンツであり、投稿者の名前と動画の内容を紹介している。ここでは利用者自身がデジタルコンテンツ制作者になる機会を提供しているため、利用者が自ら地域に関わっていくこと、さらにそれを記録し共有することへの理解を促している。ビデオ制作を活動内容と

したサークルも活躍するなど、市民の主体的な活動も見られる⁵¹。

また最近では、地域が主体的に情報を発信する「コミュニティメディア」の設置が各地で進んでおり、より効果的で地域に根ざした発信が大きな視点となっている。そこで、2013年度から、インターネットのライブ動画配信サービス「Ustream（ユーストリーム）」を活用して、事業やイベントの予告や案内、教育情報を伝える「ライブ情報配信」に取り組む。視聴覚ライブラリーが所有する専用機材と職員の専門性を最大限活かすとともに、高度情報化社会ならではの情報提供サービスを展開することで、同ライブラリーの役割である「情報拠点」としての新たな可能性を創出することが、大きな狙いである。

丹波篠山インターネットTV 累計アクセスカウント推移



⁵⁰ 「地域映像教材の提供及び活用方法のシステム化に関する調査研究」報告書

(http://www.javea.or.jp/chosa/chiki_h13/2_3_3.htm)

⁵¹ 「ビデオサークル レインボー」(<http://edu.city.sasayama.hyogo.jp/rainbow/index.html>)

「丹波篠山インターネットTV」のトップページ

また、全国のアマチュア映像作者から作品を募集し、優れた作品を「丹波篠山ビデオ大賞」として顕彰している。主催は、丹波篠山ビデオ大賞実行委員会・篠山市・篠山市教育委員会である。これは、映像を通した人づくりと地域づくりや地方からの情報発信を目的に開催しており、2012年度で第24回を向かえた。現在はYouTubeを通して視聴できるようにしており、作品に対するコメントも書き込むことができる。



丹波篠山ビデオ大賞 2012年受賞作品



■篠山市視聴覚ライブラリー
 〒669-2206 兵庫県篠山市西吹 88-1 (篠山市立中央図書館内)
 Tel: 079-590-1301
 URL : <http://www.city.sasayama.hyogo.jp/pc/group/av-library/>
<http://videotube.sasayama.jp/index.php> (丹波篠山インターネットTV)

事例 10. 徳島県立総合高等学校「まなびーあ徳島」

ポイント

- ★ 徳島県内の学習機関を横断的に連携・充実させ、ワンストップサービスで情報提供
- ★ 人文・社会科学からスポーツ・レクリエーションまで、様々な分野の講座をインターネット上で配信
- 一定単位の取得により奨励賞を授与

1. 概要

徳島県立総合高等学校「まなびーあ徳島（以下、まなびーあ徳島）」⁵²は、県の専門学校やシルバー高等学校、消費者高等学校などの学習機関がこれまで講座として個別に運営していたものを、横断的に連携・充実させワンストップサービスで情報提供を行うことで、学習内容の総合化や利用者の利便性の向上を図り、様々な学習ニーズに対応することを目的に2008年6月に開校された。知事部局と教育委員会がタイアップして企画・運営を行っているため、自治研修センター、総合教育センターの2か所を本部とし、南部校・西部校・8学部と2つの専門コースで構成されている。また、自治研修センター内にとくしま政策研究センターを設置し、地域の課題解決のための調査研究や支援活動を行っている。

2. 活動内容

(1) インターネット放送局

「まなびーあ徳島」では、県の機関が主催する講座（主催講座）と高等教育機関や市町村・民間機関と連携した講座（連携講座）を提供している。その中に、県民の生涯学習に関する利便性の向上や学習機会の充実を図るため、講座等の様子をデジタルコンテンツ化してインターネットにて配信している「インターネット放送局」がある。内容は、大学教員をはじめ、様々な分野で活躍されている方々による講演や、中国語会話教室などグローバル化を見据えた講座、南海地震に備えた避難訓練を映像化したものなどがあり、それぞれ県民向けにわかりやすく作られている。PDFファイルで関連資料も提供している。

⁵² 「徳島県立総合高等学校 まなびーあ徳島」 (<http://manabia.tokushima-ec.ed.jp/>)

(2) 単位認定制度

「まなびーあ徳島」インターネット放送局

「まなびーあ徳島」では、県民に“まなび”をより楽しんでもらうことを目的に、単位認定制度の導入と奨励賞の授与を行っている。「インターネット放送局」の講座を視聴して所定の往復はがきに感想等の必要事項を記入して本部事務局に申請すれば、単位(1講座1単位)を取得できるしくみになっている。

2012年度末で185の講座等を配信しており、2010年度開始以来、単位認定者も年々増加しており延べ587人に達している。また、100単位取得から奨励賞

受賞の該当になり、500単位取得すると「とくしま学博士」⁵³の認定試験を受ける資格も得られるなど、生涯学習で学んだことを生かす場も広がってくる。なお、上記認定及び奨励賞交付の申請は、入学時(講座受講時点で入学)に交付される「学びの手帳」の送付により行われる。さらに、単位取得の流れのeラーニング教材も作成して、利用の促進を図っている⁵⁴。



認定基準の概要

種	設定基準
まなびーあ賞	100 単位取得
すだち賞	200 単位取得
やまもも賞	300 単位取得
しらさぎ賞	400 単位取得
総合大学校長賞	500 単位取得 (とくしま学博士受験資格)
特別賞	501 単位以上 500 単位取得毎

⁵³ 総合大学校で学びを通して徳島に関与する自然、文化、地理、歴史などの広範な分野(いわゆる「とくしま学」)について探究し、講師等となって地域社会に貢献する意欲のある利用者が「とくしま学博士認定試験」に合格すると、「とくしま学博士」として認定される。

⁵⁴ 「まなびーあ徳島 放送・ネット活用講座 案内」

(<http://syougai5.tokushima-ec.ed.jp/video3w/video.php?file=guidance.f4v>)

事例 11. 鳥取県教育委員会「トリピー放送局」

ポイント

- ★ 自然や文化、産業、教育など様々な分野において、専門家が行った講演会の動画を教材としてインターネット上で配信
- 一定単位を取得するごとに奨励証が発行され、「とっとりマナビスト」の称号を得た人のうち希望者は講師に登録し、地域に知識を還元できる仕組み

1. 概要

家庭・地域の教育力向上と生涯学習に取り組みやすい環境を目指して、生涯学習のデジタルコンテンツを Web サイトで配信している。多様な分野の専門家が実際に行った講演会をビデオ撮影し、動画に字幕を加えて Web サイトで配信している。

配信内容は、集合型で実施する年 10 回のセミナーのうち、講師が Web 配信に同意したものである。鳥取は地理的に分散していることもあり、県の東・中・西の 3 会場でそれぞれ 3 人の講演と、著名人 1 名の構成で 10 回行っており、全体で約 1,000 人の受講者がいる。

2. 活動内容

(1) 生涯学習と単位認定制度

鳥取県教育委員会は、自然・文化、産業、国際化、教育・福祉等のいろいろな分野における専門家による講義を提供している。現在、約 30 本の動画が配信されている。また、単位認定制度を導入することで、生涯学習の奨励を図っている。

主催講座または連携講座の受講 1 時間あたり 1 単位を取得できる。入学申込後に交付される入学者手帳に、受講会場で配られる単位認定シールを貼り付けることになっている。

「トリピー放送局」のトップページ



100 単位ごとに「〇〇単位奨励証」が交付され、「未来をひらく鳥取学」修了かつ 200 単位の取得で、「とっとりマナビスト」の称号が授与される。

(2) 称号の獲得

「とっとりマナビスト」の称号を得た人は、講師として知識を還元することを通じて「とっとりマスター」を目指すことができる。「とっとりマナビスト」のうち希望者は、人材登録をし、後述する講座の講師を計 10 回以上行くと「とっとりマスター」の称号が授与される。該当する講座は、とっとり県民カレッジ⁵⁵の主催講座または連携講座、連携機関が主催する以外の講座等、人材情報を介して講演した講座、の 3 つである。2013 年 3 月 31 日現在、とっとりマナビストは 374 人、1,000 単位奨励賞は 95 人、2,000 単位奨励賞は 33 人、とっとりマスターは 10 人となっている。なお、認定されても、何らかの特典が得られるわけではなく、あくまで個々人の学習意欲の向上支援を目的とした制度である。

トリピー放送局は、特別な手続きや登録なしでも誰でも掲載されているデジタルコンテンツにアクセスできるが、とっとり県民カレッジ入学者に限って、専用の「視聴ノート」を提出することで単位認定している。視聴記録をノートに書いて郵送して認定を受ける方式である。

■鳥取県教育委員会

〒680-0011 鳥取市東町 1 丁目 271

Tel : 0857-26-7943

URL : <http://www.pref.tottori.lg.jp/toripi/> (トリピー放送局)

⁵⁵ 「とっとり県民カレッジ」 (<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=47333>)

「とっとり県民学習ネット」 (<http://manabi.pref.tottori.lg.jp/>)

事例 12. ネットミュージアム兵庫文学館

ポイント

- ★ 室町時代以前から近現代までの作家について、アニメーションによるわかりやすい解説で学べるインターネット上のコンテンツ
- ★ 設定されたコースに沿って文学にゆかりのある地を歩きながら、スマートフォン上で詳しい解説を見て学習できる、GPS 機能を利用したアプリケーション（以下、「アプリ」という。）
- ネットミュージアム兵庫文学館検定では、学んだ知識を 3 つのレベルで確認することができ、合格すればオリジナルグッズを贈呈

1. 概要

「ネットミュージアム兵庫文学館」は、兵庫の文学を育んできた多くの先人の業績を、兵庫に関係のある文学作品や作家写真、兵庫の風土などを多角的な視点から紹介する、インターネット上のサービスで、2002 年 11 月に開館した⁵⁶。

常設展示、文学碑マップ、企画展示別に紹介し、ビデオイメージ、音声解説、アニメーション等の技術を活用することによって、利用者が快適に鑑賞し学習することができる。Web ページを中心に展開し、その利用を促進するためのアプリも制作・公開し、いつでも誰でも利用できる、発展性のあるインターネット上の文学館を目指している。Web サイト開設以来のアクセス数は 130 万を超えている⁵⁷。

兵庫県立美術館が 2002 年 4 月、開館時に情報システムが構築されたのにあわせて、「ネットミュージアム兵庫文学館」事務局を美術館に設置した⁵⁸。

2. 活動内容

(1) デジタルコンテンツ

各展示は、室町時代以前、江戸、近現代と分類されており、それぞれの時代についてデジタルコンテンツが用意されている。企画展示では、室町時代以前のデジタルコンテンツ

⁵⁶ 「ネットミュージアム兵庫文学館の紹介」

(<http://www.library.pref.hyogo.jp/link/bungakukan/bungakukan02.html>)

⁵⁷ 「ネットミュージアム兵庫文学館 トップページ 来館者数」(<http://www.bungaku.pref.hyogo.jp/>)

⁵⁸ 展示内容は美術館とは直接の関係はない。

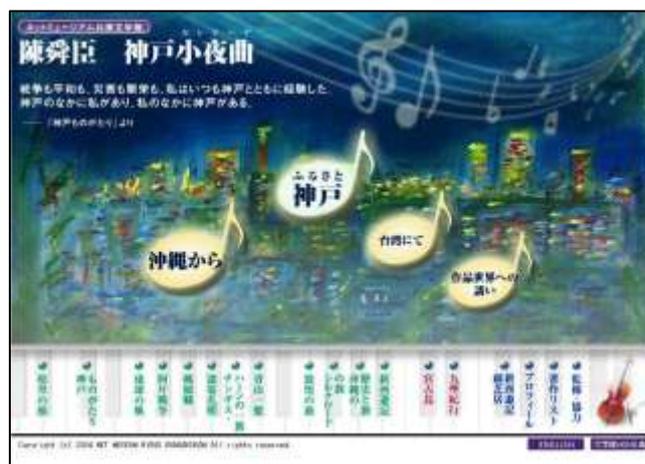
として「歌枕館」など5件、江戸時代については「近松門左衛門館」など6件、近代については「谷崎潤一郎館」や「水木しげる館」など12件が用意されている。

作家や作品、ゆかりのある地など多様な情報が含まれており、それぞれのデジタルコンテンツはその人物にあったデザインになっている。見たい情報をクリックすることでアニメーションや文字・写真資料、音声解説などを通して情報を得ることができ、視覚的にも楽しみながら学習できる優れたデジタルコンテンツがそろっている。

「昔話・紙芝居」のページもあり、ここでは本当に紙芝居を見ているかのようにデジタルコンテンツを楽しむことができる。一方常設展示では、兵庫にゆかりのある作家について展示しており、時代ごとにゆかりの作家や文学マップなどを閲覧できる。

文学碑マップでは、兵庫県内の文学碑がある場所がグーグルマップ上に示されており、どういう文学碑がどこにあるのかを一目で見ることができる。企画展示の制作は2006年に完了しており、現在は常設展示や文学碑マップの充実が図られている。

企画展示－陳舜臣トップページ



(2) スマートフォンの活用

インターネット上でのデジタルコンテンツの利用幅を広げるために、スマートフォン用のアプリの作成も手がけている。2011年4月からは「ひょうご文学小径・須磨」、2012年4月からは「ひょうご文学小径・兵庫長田」を公開している。いくつかのテーマにしたがってコースが設定されており、各スポットではGPS機能を活用して詳細な解説が行われる。すべてのコースを達成すると達成画面が表示され、兵庫県立美術館で、その画面や印刷したものを提示すると、記念品をもらうことができる。アプリにはパノラマ写真や音声案内など、多様な機能が備わっており、歩きながら学習できるシステムを提供している⁵⁹。

⁵⁹ ネットミュージアム兵庫文学館ニュースプレス 「ひょうご文学小径こみち・須磨」の公開

(http://www.artm.pref.hyogo.jp/news/press/pdf/press_y110428.pdf)

ネットミュージアム兵庫文学館ニュースプレス 「ひょうご文学小径こみち・兵庫長田」の公開

(http://www.artm.pref.hyogo.jp/news/press/pdf/press_y120426.pdf)

(3) 「ネットミュージアム兵庫文学館検定、ぶんがく寺子屋等」

これらを通して学習した知識を確認する手段として、「ネットミュージアム兵庫文学館検定」が2009年4月から用意されている。ここでは、掲載している文学に関する知識をクイズ形式で利用者自らが試す検定を提供している。検定前に利用者は、ニックネーム、居住地都道府県名、年代を入力し、初級・中級・上級のレベルを選択する。問題はどのレベルについても60題ずつ用意されており、それぞれのレベルに応じた問題

「ネットミュージアム兵庫文学館検定」



がランダムに20題出題され、いずれも4つの選択肢のうちから正しいものを選択する形式となっている。各問題について解答と解説が表示され、解説に関してはネットミュージアム内の関連するページへのリンクもあるため、検定を受けながら、あらためて学習が可能となっている。正答率が7割以上で合格となり、認定書が発行される。その認定書の画面や印刷物を兵庫県立美術館に持参し提示すると文学館のオリジナルグッズ（専用のしおり等）をもらうことができる。検定結果のランキングも閲覧することができ、感想の投稿も可能である。また、常に問題自体がリニューアルされるなど、工夫がなされている⁶⁰。

「ぶんがく寺子屋」



その他、歌枕などについて同文学館を活用した授業を映像で公開し紹介する「ぶんがく寺子屋」のページや、同文学館のデジタルコンテンツの概要をワンクリックで表示する「ナビゲータ」が用意されており、どれもデザインが優れており使いやすいよう工夫がなされている。また「意見箱」を用意することで利用者の感想や意見などを積極的に募集しており、よりよいデジタルコンテンツ制作を目指している。

■兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目1番1号

Tel: 078-262-0901 (代表)

URL : <http://www.bungaku.pref.hyogo.jp/>

⁶⁰ ネットミュージアム兵庫文学館ニュースプレス 新コンテンツ「ネットミュージアム兵庫文学館検定」公開 (http://www.artm.pref.hyogo.jp/news/press/pdf/press_y090423.pdf)

事例 13. むなかた電子博物館

ポイント

- ★ 宗像の歴史、文化財、自然について、写真や動画を豊富に取り入れたデジタルコンテンツを制作してインターネット上で紹介
- 運営面では市民ボランティアが自主的にやっている部分も多く、市民企画との連携も積極的に実施

1. 概要

「むなかた電子博物館」は、宗像の歴史・文化（民俗・芸術）・自然をテーマにデジタル集積を行っている。デジタルデータを用いることで、利用者の理解促進を効果的な手法で実現し、市民の地域学習の一助として使われることを目指している。2010年には、九州 Web サイト大賞の教育部門において優秀賞を受賞した。郷土「むなかた」について歴史・文化・自然と広く公開し、地域の情報発信、観光等に資することを目指している。また、市民ボランティア（市民パートナー）を中心とした企画・運営が特徴といえる⁶¹。

2. 活動内容

(1) これまでの過程

宗像市では、地域イントラネット事業で整備された「ゆいネット」が2003年から運営を開始し、同ネットで結ばれた機関・地域が広がっていった。その各機関が利用できる仮想展示施設として「むなかた電子博物館」が構想され、2005年4月に発足した。宗像市だけでなく、旧玄海町、旧福間町など広域宗像地域を対象としている。目的の一つが、行政と市民との協働、市民の文化創造行動の活性化である。

宗像市企画調整部情報政策課が事務局となり、設立の過程は、公開メーリングリスト、公開電子フォーラム、各種宗像市広報で広く一般に公表しながら行われた。また、博物館で展示品をみるだけでなく、市民パートナーからの更新を促し内容の充実を図っている。なお、設立や運営にあたり、必要な費用は行政が負担している。電子博物館の設立のための費用は約1,000万円で⁶²、建築を伴う従来型の博物館と比較すると安い、展示品を更新しや

⁶¹ 2009年のむなかた電子博物館運営企画会議に参加した市民パートナーは15人。

⁶² 伊津信之介（2009/4/1）『「むなかた電子博物館」の可能性』「むなかた電子博物館」紀要 創刊号
(http://d-munahaku.com/culture/kiyou/files/kiyou_090401/24-41.pdf)

すい、インターネット上なので広く利用できるというメリットがある。

2005年5月の開館以来、2009年12月までのアクセス件数は62万5千件であった。年々、アクセス件数は増加しており、2009年の年間件数が、20万6千件に達している。

(2) 地域全体について楽しく学べる電子博物館

「むなかた電子博物館」は、来訪者にとって、地域全体が展示となるであろう自然から歴史まで、眼で、手で、足で巡るための情報を選べる博物館、生活の中に現れる文化を生活者が主体的に選び、学び、理解し、楽しめる博物館を考えている。このような博物館像を目指し、歴史、文化財、自然といった大きな三つのテーマから地域の情報を紹介している。

各テーマには情報を伝えるキャラクターが用意され、地域の航空写真や文化財の写真等をクリックすると、各キャラクターが拡大写真等を用いて説明を行う。音声ファイルでむなかたのわらべ歌が聞けたり、町の現在と昔の写真を閲覧したりできるサービスが独創的である。

また、道具を使うことでより詳しい説明や別のデジタルコンテンツを見ることができる「むなかた仙人の道具」を用意するといった、親しみやすい工夫もしている。7つある道具の1つとして「仙人の知恵ぶくろ」⁶³という意見ボックスがあり、市民に歴史、文化財、自然の各コーナーにおける情報の投稿を促している。

電子博物館は、市民が実施する企画展などとの連携をはかっている。例えば、「北斗水くみ」という天体ショー、また「北斗水くみ写真展」などを実施しているが、それらは同博物館の市民パートナーが企画して行っており、入賞した写真は同博物館に展示される。また、2010年に宗像ユリックスで行われた「田熊石畑遺跡と古代ムナカタ展」では、電子博物館で企画展の告知、カウントダウンをして盛り上げた。また、企画展に訪問して閲覧するだけでは見られない方向から展示物を撮影しそれを電子博物館で公開するといった試み

「むなかた電子博物館」の歴史紹介ページ



⁶³ 「仙人の知恵ぶくろ」 (<http://d-munahaku.com/mail/mail.html>)

をしている⁶⁴。

さらに、様々なテーマに関する専門家の論文や座談内容を、Web上の「むなかた電子博物館紀要」で公開している。

(3) 今後の課題

今後の課題としては、内容の充実度のわりにアクセス数が低く「認知度が低い」ことが挙げられている。そのため、教育現場との連携に力をいれ、具体的に教育のどの単元で同博物館の何が使えるかを提案していくことを検討している。また、来館者の質問に迅速に対応する学芸員がおらず、市民パートナーの個人の能力に頼る結果になっていることや、頻繁に展示更新ができないといった課題が認識されている⁶⁵。

2012年4月に「宗像市郷土文化学習交流館」という実物の博物館が登場し、電子博物館の欠点を補い合いながらの発展が期待される。

■むなかた電子博物館事務局 宗像市役所 郷土文化交流課

宗像市郷土文化学習交流館（海の道むなかた館）内

〒811-3504 宗像市深田 588 番

Tel : 0940-62-2600

URL : <http://d-munahaku.com/index.jsp>

⁶⁴ 白木英敏（2011/4/1）『「田熊石畑遺跡と古代ムナカタ展」を終えて』むなかた電子博物館紀要 第3号

⁶⁵ 課題の指摘の出所：上田めぐみ（2011/4/1）『「むなかた電子博物館」の評価と課題』むなかた電子博物館紀要 第3号

事例 14. 歴史博物館ネットミュージアム「ひょうご歴史ステーション」

ポイント

- ★ Web サイト上に写真や動画、詳しい音声解説、さらに参加型のアニメーション付きデジタルコンテンツが用意されており、兵庫の歴史や伝統についてどこでも気軽に学べる機会を提供するネットミュージアム

1. 概要

「ひょうご歴史ステーション」は兵庫県立歴史博物館が運営するネットミュージアムであり、2005年度に開設された。兵庫県域の歴史や文化に関する情報を提供するだけでなく、ネットの特徴を活かして、博物館と利用者の交流の場として発展することを目指している。

様々な情報の検索機能と学校関連情報を提供する「れきはく情報交流センター」、画像・映像のデジタルコンテンツを中心とした「歴史ステーション展示室」、閲覧者と歴史博物館の交流の場を目指す「歴史ステーション広場」の3つの柱で構成されている。

2. 活動内容

(1) 「歴史ステーション展示室」

「歴史ステーション展示室」は、兵庫県の歴史、伝説、伝統祭り等を動画及びアニメーションと音声解説を活用した番組で紹介している。画面に表示されているアニメーションを利用者がクリックしながら様々なデジタルコンテンツを視聴できるシステムであり、ゲーム感覚で学習できる。

デジタルコンテンツは、優れたデザインと動画、詳しい音声解説、展示品や地域の実物写真などが豊富で、ICTを活用して制作されている。また、博物館の展示物に関する解説を聴きながら高画質な画像で当該展示品を閲覧できる「名品紹介」のコーナーもあり、博物館での学習の予習や復習としても活用されている。

(2) 「れきはく情報交流センター」

「れきはく情報交流センター」では、博物館でのイベントや講座などのお知らせや県内の歴史に関する事典「ひょうご歴史事典」などのデジタルコンテンツを掲載している。2007年に県立博物館がリニューアルオープンして以来、館内の「ひょうごライブラリー」室の端末で限定公開していた展示物をインターネット上で閲覧できるようにしたもので、2013

年3月現在、収録情報数は766件である。同事典では兵庫の歴史に関して、キーワードや地域、地図、年表、または50音順の一覧から検索可能で、文章だけでなく写真も掲載されている項目もある。他のデジタルコンテンツを利用する際に参照すれば、より理解が深まることが期待される。また、「歴史ステーションセミナー」では、学校教育での活用も念頭に置いて制作された文化財をじっくりと読み解いていくデジタルコンテンツを公開している。

「ひょうご歴史ステーション」の伝説紹介ページ



(3) 「歴史ステーション広場」

「歴史ステーション広場」では、兵庫県域の歴史や文化財について紹介するコラム「れきはく講座」があり、毎月一度学芸員によって制作され更新されている。「ひょうごれきはく日記」では、博物館の日々の様子や周囲の様子を歴史と関連付けながら利用者に伝えていく試みがなされている。利用者はこれを読むことで、歴史上の兵庫と現在の兵庫を結びつけながら兵庫の歴史を身近なものとして学んでいくことができる。

■兵庫県立歴史博物館

歴史博物館ネットミュージアム「ひょうご歴史ステーション」

〒670-0012 兵庫県姫路市本町 68 番地

Tel : 079-288-9011

URL : <http://www.hyogo-c.ed.jp/~rekihaku-bo/historystation/>